

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	遊栗館管理運営事業			
予算科目	7 款 1 項 5 目			
総合計画での位置付け	産業の振興～もりもり元気なしごとづくり～ 観光の振興			
所管課情報	担当課: 経済雇用戦略課		電話番号(内線): 572	
記入者情報	所属長: 市野 孝敏		担当責任者: 平井 隆雄	
事業の性格	内部管理事務			
実施期間	【開始年度】平成 17 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	一般市民・都市住民			
根拠法令等	伊予市なかやま地域資源活用工房施設条例、同条例施行規則			
事業の目的	地域資源を積極的に活用し、農山村特有の食文化の創造及び特産品の開発研究、展示販売等を行うことにより都市住民との交流を促進し、市の活性化に資する。			
事業の内容	指定管理の下、施設の維持管理、利用許可に関すること 地域資源を活用した食文化の創造、特産品の開発研究、展示販売			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	観光パンフレット等によるPR活動を積極的に行うとともに、イベント実施により来客数の増加を目指す。			
改善策の 具体的 取り組み	施設の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕が必要となっている。施設管理者と協力し、早目早目の対応を行っていく。			

事業費及び財源内訳					
項 目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	3,783	3,964	3,564	3,942
	人件費	557	563	141	563
	合計	0	4,527	3,705	4,505
人件費 内訳	人工数	0.07	0.07	0.04	0.07
	人件費単価	7,954	8,042	4,021	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	556	562	140	562
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	4,340	4,527	3,705	4,505

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
利用者人数	人	9930	10000	4752	8224

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
		3,964	4,300	4,200	4,200	

成果指標				
成果指標	利用者人数			
指標設定の考え方	施設利用の効果の判断基礎となる入場者数			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	18000	10000	10000	10000
実績	9930	8224	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	利用者人数が減少し続けており、施設管理者も危機感を持って対応しているが、成果が表れない。利用者が年々減少し続けている要因の一つに施設が老朽化していることも挙げられるかもしれないが、修繕区分を明確にし、施設管理者で対応できる部分は早目の対応をとるように指導を行っていく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	D
		成果向上の可能性	2	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	指定管理者制度を導入した施設だが、自主事業の利用者が減少しており、今後新しい企画を積極的に検討する中で利用者増を図れるよう指定管理者と協議を積極的に行い より適正な施設管理とサービス提供が行われるように指導及び支援する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価段階で低評価となっていることから、行政評価委員会に諮る。 (二次評価者コメント) 施設の経年劣化も見られることから、指定管理者と話し合いながら長寿命化計画を作成し、財政部局と協議を行っておく必要がある。併せて、存続の是非についても検討する必要があるのではないか。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標は売上とすべきである。利用度が落ちている見解、理由付けはもっと考えていただきたい。 ・空間のデザインをもっと良くすべきである。地域を代表する食を開発するとか、ソフトをもっと考えるとか詰めるべき ・立地場所が場所なので、止まってもらう仕掛けがある。今の営業時間で近隣の人に特化して呼び込むか、時間を広げて広く一般の人を呼び込むか。誰をターゲットにするか絞り込まないといけない。 ・事業シートが暗いイメージしか残らない。もっと指定管理者に頑張っていたきたい。目立ちにくい場所であるが、もう一工夫施設の有効活用をしていただきたい。指定管理者に独自事業を充実してもらいたいという注文は付けられる。 ・事業内容にある食文化の創造や特産品の開発研究はなされていない。力を入れるなら予算を取ってもう少し盛り上げるべきである。現状は管理しているだけなので、やるならちゃんとしたものにしていただきたい。 ・施設を造った段階では存在理由も確認できたのだろうが、利用減となった今、直営か指定管理かという二者択一はもちろんのこと、施設それ自体を行政財産から普通財産に転化することも視野に入れてはどうか。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	